

只見町

特色あるまちづくり

- ・雪や自然資源のエネルギーなどへの活用検討
- ・自然資源を活かした新たなライフスタイルの検討

雇用創出・産業

- ・魚族を活用した商品開発
- ・ブナ加工品の開発
- ・ひろろ細工を活かした新たなプロダクトデザイン
- ・豊かな自然資源・雪を活かした付加価値ある特産開発

子育て支援・福祉

- ・3地区から利用されるための移動手段など仕組みづくり
- ・地域の見守りなど少子高齢化に向けた支えあいの仕組みづくり

防災

- ・全町の防災計画

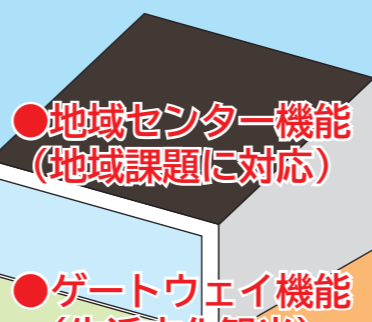
次世代型道の駅

- ・まちなか・3地区との相互連携
- ・自然エネルギーの利用

- ・自然を活かした、新たな只見ブランド商品の開発・販売
- ・工房などの起業支援の場の提供
- ・地域内に向けた手しごと講座

- ・若者や子育て世代が交流できる空間
- ・地域の人にとって利便性の高い商業活動
- ・域内交通の拠点
- ・道の駅が主体となった買い物代行、移動販売など

- ・備蓄、災害時避難場所となる空間



- ・四季の魅力を活かした活動
- ・四季の魅力を活かし通年でのイベントの開催

- ・只見町の自然、エコパークの情報発信

- ・まちなかとの相互連携
- ・郷土料理を食べられる場所への誘導
- ・その場で体験プログラムに参加できるなど、空き時間を有効に過ごせるサービス提供

- ・観光まちづくり協会と連携した観光情報の発信
- ・ワーケーションの受け入れ

- ・エコパークやブナ林などのガイドの更なる充実

- ・ブロッケン現象などの希少な風景体験の掘り起こしと効果的な発信

- ・まちなかの旅館、商店のサービス向上

- ・他の道の駅との広域連携

- ・海外客向けの観光商品開発

- ・より広い観光客層に受け入れられるよう観光資源の磨き上げ

自然首都・只見

観光交流

道の駅の運営方針の設定検討

各委員からの提案書

地域センター機能

日用品の買い物を揃えられる場所がない ———— コンビニ
 緊急時に買える薬局が欲しい ———— ドラッグストア
 使い勝手のよいATMがない ———— ATM
 適切なたまり場がない ———— 若者、子育て世代の集まる場
 自然資源を活かした産業を育てる土壌がない ———— 伝統技術
 地域交通が不十分である ———— デマンドバス等
 文化・交流施設が欲しい ———— 文化・交流施設

時間をつぶせる場所がない ———— 観光施設、喫茶等
 只見の人は接客が下手 ———— 接客の向上
 子どもやペットが楽しめる広場がない ———— 遊び場、公園、広場
 郷土料理を食べられる、発信できる場がない ———— 郷土料理の提供
 自然の魅力が伝えられていない ———— 自然の情報発信

ゲートウェイ機能

地域センター機能

<暮らしの一部として季節を問わず親しまれている場面>
 <町民が皆で道の駅を育てていく場面>

<只見町の自然資源を活かした商品を開発、販売している場面>

<地域外の人が只見町の自然やエコパークを知り楽しんでいる場面>
 <情報拠点となり地域外の人材を受け入れている場面>
 <イベント等の賑わいの場面>

ゲートウェイ機能

活動展開の方向性

- 地域の人にとって利便性の高い商業的な活動
- 若者や子育て世代が集まり交流できる活動
- 3地区から訪れやすい、連携しやすい仕組み

- その場で体験プログラムに参加できるなど、空き時間を有効に過ごせる活動

- 郷土料理を食べられる場所等へ誘う活動

- 只見町の自然、エコパークについて発信する活動

- 観光まちづくり協会と連携した観光情報の体系的な発信

- 四季の魅力を活かした活動

- 無理のない規模で運営し、町民が皆で関わり育てていける活動

- 自然を活かした、新たな只見ブランド商品の開発・販売

- 工房などの起業支援の場の提供

- 只見の自然、エコパークに関する発信

- ワーケーションの受入れなど地域外の人材を受け入れる活動

- 四季の魅力を活かし通年でのイベントの開催

人口減少社会において次世代型道の駅を持続的に運営するためのルール12カ条

1. 身の丈にあった経営規模であること
2. 小さく生んで大きく育てられるものであること
3. 観光客だけでなく町内で日常的に利用してもらえること

4. 民営圧迫せずに周辺施設と相互補完の関係にあること

5. まちなかとの相互連携を図り市街地の活性化に寄与すること

6. 玄関口として体系的にまちの情報を案内できること

7. 四季の魅力を活かした施設であること

8. 冬場にも人が集まる施設であること

9. 自然資源を活かした技術や自然と共生した暮らしを発信し、かつ次世代へ継承できる施設であること

10. 子育てしやすい環境を提供できていること

11. 将来的に町外からの定住希望者が増えるよう、関係人口の増加につながる施設であること

12. 町内での若者の起業を支援できる施設であること

現状分析

需要量

交通量などの立地条件が厳しい地域である。

- 前面道路交通量(推計) 3,276台/日
- 周辺道の駅の前面交通量
- あいづ湯川・坂下 9,860台/日
- にしあいづ 4,388台/日
- みしま宿 3,884台/日
- たじま 2,895台/日

中心市街地

道の駅の半径1km以内に、商店、飲食店、居酒屋などが点在している。(現況)
 八十里越え開通を見据えた中心市街地の整備が求められている。(振興計画)

年間の観光客数、資源

冬場の観光客は夏場の50%以下となる。(観光統計)
 タイや台湾などの海外客には、冬季ツアーの可能性はある。(キーマンヒアリング)

エコパーク

エコパーク事業のうち、地域資源を活かした地域活性化、産業振興があまり機能していない。(キーマンヒアリング)
 観光客に、エコパークとは何かをうまく伝えられていない。(キーマンヒアリング)

子育て

「安心して子どもを産み育てられるまちづくり」に関する施策の町民満足度が低い。(振興計画)
 特に、後継者や花嫁、花婿対策に対する町民満足度が低い。(振興計画)

現在の課題

道の駅の将来像

只見町 次世代型道の駅 基本的な考え方

